

# The process of maintenance dialysis in depressed patients on hemodialysis

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/37208">http://hdl.handle.net/2297/37208</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 25年 8月 20日

## 博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 0727022020

氏名 坂東 紀代美

論文審査員

主査(職名) 北岡 和代(教授)

副査(職名) 大桑 麻由美(教授)

副査(職名) 稲垣 美智子(教授)



論文題名 The process of maintenance dialysis in depressed patients on hemodialysis

論文審査結果

### 【論文内容の要旨】

うつ状態にある血液透析患者が、どのようにして透析を継続しているかを明らかにすることを本研究の目的とした。自己評価抑うつ尺度 (SDS) が40点以上のうつ状態にあり、且つ血液透析を3年以上行っている患者10名を参加者とし、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) を用いて行った。参加者に対して、半構成的な面接を実施した。分析はM-GTAの手順にしたがい、分析テーマに関連する具体例を抽出し、参加者の視点から解釈し、概念を生成した。さらに、概念間の関係性を考察し、概念を包括するカテゴリーを生成し、結果図を作成した。

結果、4つのカテゴリーと13の概念を抽出した。うつ状態にある血液透析患者は【繰り返す合併症への苦痛苛立ち】や【死ぬまで続く透析通い】など《生きる苦痛》をもつ半面、《生き抜く信念》をもち、今まで【乗り越えてきた自分の力】を信じ、透析を【生きるための透析】と捉え、できないことが生じても【今の自分と折り合いをつける】意思決定をし、【死を寿命と捉える】考えの変化を生じさせていることを明らかにした。また【患者同士の情報交換】での知識を活用し、【共に歩んでくれる医療者】という安心感をもち、生活する上で【家族の支え】や【経済的サポート】など、《受容を支える力》を糧とし、【ほどほどの仕事のやりくり】を行い、【生きがいの存在】を見つけ、【役割を遂行することの充実感】など《生きる喜び》を感じながら、透析を継続しているというプロセスを描くことができた。

### 【審査結果の要旨】

日本の血液透析患者数は約30万人おり、年々増加している。患者はさまざまなストレスを抱えていると報告されているが、看護の立場からの研究が少なく、どのような看護ケアを提供していくことが必要なのかを検討していくことが課題となっている。本研究は、この課題に対する一つの解答であり、学術的に意義があると評価できる。また、本研究の成果は今後臨床において活用できる知見であり、血液透析患者に対するより質の高い看護ケアへの貢献となりうる。公開審査では、文献レビュー、研究デザイン、目的と方法、対象、概念、考察、本研究結果の臨床への活用等について質疑され、いずれも適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。